

第 39 回石膏ボード賞受賞者紹介

(各賞五十音順)

特別功労賞

腰原 幹雄 殿 東京大学生産技術研究所 教授

功績：「構造設計等を通じた大規模木造建築振興への貢献」

腰原氏は構造設計という立場から、木材を構造材料とする斬新な現代建築の実現や歴史的建造物の保存活用に先導的な役割を果たしている。

その成果としては自身の構造設計や構造設計指導を通して、耐火木造の可能性を追求するとともに、耐火木造に対する社会的関心の高い建築作品を数多く発表し、また、NPO 法人 Team Timberize を設立、その理事長として高品質の石膏ボードの有望な市場である大規模木造に関する展示等を精力的に行うなど、大規模木造建築振興に多大な貢献をしている。

田村 雅紀 殿 工学院大学 建築学部 建築学科 教授

功績：「建築材料を環境面から評価した一連の研究」

1990 年代は、国内で数多く蓄積された建築ストックに関する維持保全の課題と、建築物における地球環境問題への影響が喫緊の問題として広く論じられた時期であるが、研究活動の当初から石膏ボード初めとする各種建材の製造・施工・輸送上の CO2 排出量等の環境負荷の評価、平常時・災害時を通じた未利用資材および廃棄物起源材料のリサイクル化技術の検討、各種建材のマテリアルフロー作成に基づく資源循環性の評価など、石膏ボードを含めた建築材料の環境評価で多大な貢献をしている。

森山 修治 殿 日本大学工学部建築学科 教授

功績：「超高層建築物のシャフトにおける漏煙指針整備における貢献」

森山氏は、長年にわたり(株)日建設計で設備設計及び防災計画に従事し、地下空間、高層建築物等、現代の大規模建築物の防災に係る研究に取り組み、実務経験を活かした優秀な研究成果をあげてきた。

取り組んだ研究課題の多くは、東京等、大都市の安全維持において重要な意義を持つもので、東京消防庁等、行政機関の政策誘導に係る研究会等でも指導的役割を果たし、平成 21 年に東京消防庁が、高さ 100m を超える超高層建築物の防火区画等における煙等の漏えい防止に関わる指導の基準作成にあたっては、その火災事例より、シャフトに働く煙突効果が顕著であり、火災時の煙拡大を抑制するには、乾式工法では接合部等の漏煙対策が必要なこと等を明らかにして、現実的で効果の大きい漏煙方法の整備等で多大な貢献をした。

功 勞 賞

横山 至 殿 吉野石膏(株) 常務取締役技術研究所長

功績：「石膏ボード工業会の専門委員長としての功績」

平成 25 年 4 月に技術委員会並びに廃石膏ボード対策専門委員会の委員長に就任して以降、JIS A 6901 等の標準化、大型木造における石膏ボードの告示化の推進やリサイクルの推進で主導的な役割を果たすなど石膏ボード業界の発展に貢献をした。

技 術 賞

磯田 洋 殿 吉野石膏(株) 千葉第二工場長

功績：「石膏ボード製品品質の改善及び製造技術の向上に関する功績」

昭和 55 年に入社以来、一貫して石膏ボード工場で石膏ボードの品質向上と製造技術の改善に取り組み、平成 18 年以降は歴任した主要工場毎で製造設備を詳細に分析し、設備の改善、新設備の導入、製造技術の新しい道を開くなど、製品品質の改善及び製造技術の向上に貢献をした。

新田 亙 殿 チョダウーテ(株) 上席執行役員市場開発本部副本部長

功績：「機能性商品及び構造体の開発による石膏ボードの用途拡大に寄与」

平成 7 年に入社後、研究開発部門において機能性商品等の研究開発業務に従事し、調湿石膏ボードの開発を始め多くの商品開発に携わり、また、平成 12 年の建築基準法の改正では構造体チームを編成して各種石膏ボードを利用した防耐火・遮音壁、木造住宅の耐震壁等の研究開発業務を先導し多くの新商品を上市するなど石膏ボードの用途拡大に貢献をした。

市場開拓賞

須藤 潮 殿 吉野石膏(株) 取締役副社長

功績：「石膏建材の需要拡大に貢献」

平成 10 年以降、石膏建材の販売に意欲的に取り組み、顧客第一の営業姿勢をモットーに新製品・新工法を積極的に PR して顧客のニーズを的確に掴み、時代に合った石膏建材の普及に努めた。また、東京支店長に就任して以降、共同住宅の乾式戸境壁の普及化、住宅の二重床構造、木造外壁の不燃化、外装下地の不燃化等、新しい石膏建材の新用途開発や需要拡大に貢献をした。

以上